

ニュース

全関労

2023年
5月5日
VOL. 50
No. 5

東京都台東区小島1-8-7

Zenkan1972@yahoo.co.jp TEL 03(3866)3433

全関東単一労働組合本部

琉球弧の軍事要塞化反対！ 戦争・改憲阻止！

戦争と覇権のG7広島サミット反対

5・15沖縄ー5・20広島現地行動へ

5月19ー21日、広島においてG7広島サミットが開催される。参加するのはバイデン大統領（米）、スナク首相（英）、マクロン大統領（仏）、シオルツ首相（独）、メローニ首相（伊）、トルドー首相（加）、そして今回議長を務める岸田首相とEU（欧州連合）からミシェル欧州理事会議長とライアン欧州委員会委員長である。この顔ぶれからも明らかなように、サミットはEUと米英、それに追従する日本をメンバーとする資本主義大国の会議である。その首脳が年に一度一堂に会し、世界をどのように支配し覇権や権益を維持していく

のかを謀議し確認するのがサミットだ。

今回のサミットの主要な議題は、①ウクライナ戦争、②対中国政策、③グローバルサウス諸国への対応、だと報道されている。4月16日から開催されたG7外相会議では、①自由で開かれたインド太平洋の重要性、②対口制裁を強化し、ウクライナを支援する、③中国の現状変更の試みに反対、台湾海峡の平和と安定 ④「ヒロシマ・アクション・プラン」を歓迎、などの共同声明を発表した。

G7のダブルスタンダード

・ご都合主義をゆるすな

この外相声明は首脳会議（サミット）に向けた議論の方向性を示すものでありその内容でもある。首脳らはサミットにおいて、対中国包囲網形成とウクライナ戦争継続を意志一致し、それを進めるために対口制裁などで中立的立場をとっているグローバルサウス諸国の抱き込みを目論んでいるのだ。会議の議長を務めた林外相は声明発表にあたって「世界のどこであれ、一方的な現状変更の試みに強く反対する」と確認できたのは大きな成果だ」と胸を張った。

しかしこの「確認」ほど自分勝手でご都合主義的なものはない。今、中東パレスチナではイスラエルが国連決議に違反して不法行為（占領地での入植地を拡大）を繰り返し、居住するパレスチナ人への武装襲撃、家屋の焼打ちなどあらゆる「一方的な現状変更」やガザ地区への無差別攻撃に対して国連安保理では何回となく非難決議が提出された。しかしその都度米国などの反対や拒否権行使によって葬り去られてきたのである。また米国は「大量破壊兵器の開発」を理由にイラク戦争を開始し、フセイン政権を打倒したが「大量破壊兵器」など一切なかった。この戦争で50万人を超える死者が出た。だが米国は謝罪も反省もしていない。これほどの二重基準（ダブルスタンダード）があるだろうか。彼らに「現状変更の試み」を云々する資格など一切ないのだ。

G7大国の今も続く

侵略責任を追及しよう

G7各国は17世紀から20世紀にかけて、文字通り帝国主義国家として世界的規模で軍事侵略を行った。アジア・アフリカ・アメリカ大陸・太平洋諸島などで各地を植民地化し、奴隷貿易をはじめ原住民・先住民の生活、文化の一切を破壊し、筆舌に尽くしがたい犠牲を負わせてきた。イギリスは植民地インドを拠点にアジア侵略に乗り出して中国にアヘン戦争を仕掛け、北米大陸、オセアニアに植民地を拡大した。しかし、イギリスは過去の植民地支配に対して公式に謝罪していない。日本も朝鮮半島を植民地支配し、中国東北部に「満州国」をでっち上げ、三光作戦（殺し尽くし・焼き尽くし・奪い尽くす）を展開したが戦争賠償を「経済援助」にすりかえ、朝鮮植民地支配を不法行為だったとは認めていない。「軍隊慰安婦」問題や「韓国徴用工」問題での韓国に対する日本政府の高慢かつ不遜きわまりない対応の根本はそこにある。植民地獲得を巡って対立し、二度にわたる世界大戦で覇権を争い、世界中を血に染め分断をもたらしたG7各国は、共通の利害もとにG7として「団結」し覇権（世界支配）の維持を目論んでいる。それを確認するのがG7サミットだ。

今や100カ国を超えるグローバルサウスのまとめ役と目されるインドは19世紀半ばから約100年にわたりイギリスの侵略に植民地支配を受けた。その他のグローバルサウスの国々の多くも同様に日本をはじめG7各国の侵略を受けて

いる。そして米国を盟主とするG7は今も覇権を追い求め戦争を引き起こしている。そんな連中が言う「法の支配に基づく国際秩序」だとか「自由で開かれたインド太平洋」などを誰が信じていることができるだろうか。戦争と覇権のG7広島サミットに反対しよう。5・19〜20現地行動に参加しよう。

琉球弧の軍事要塞化を

阻止しよう

G7・NATOは欧州においてウクライナ戦争を継続するとともに、東アジアにおいては対中国戦争を構えている。米国は日本と共に「台湾有事」を煽り立て、ペロシ米院議長（当時）の台湾訪問や蔡英文台湾総統の訪米などで中国への徴発を繰り返している。

米国の覇権主義と世界軍事戦略に追随する日本政府・岸田政権は対中国戦争に備えて軍事費を倍増し、琉球弧の島々に自衛隊ミサイル部隊を配備している。そこに「トマホーク」など長射程ミサイルを配備し、「反撃能力」と称して「敵基地攻撃（先制攻撃）」をしようというのだ。こんな危険極まりない策謀を断じて許してはならない。

今、琉球弧の島々では、政府による強権的な自衛隊ミサイル部隊の配備や辺野古新基地建設に抗して日常的に闘いがおこなわれている。この闘いを私たち日本（ヤマト）の労働者・労働組合の課題としなくてはならない。「5・15復帰」を問う沖縄行動は、―琉球弧を再び戦場にするな―を掲げて5・

15沖縄現地での集会とデモを呼びかけている。5・13〜15沖縄行動に参加しよう。

〈5月沖縄行動集会・デモ〉

- ★キャンピングザー包围デモ 5月13日（土）午後1時半
浦添市役所集合 主催：浦添軍港反対！浦添市民行動
 - ★5・14脱植民地化沖縄集会 5月14日（日）午後2時
浦添市社会福祉センターホール
主催：「5・15復帰」を問う沖縄行動
 - ★「日本復帰」を問う道ジュネー 5月15日（月）午後6時
牧志公園 主催：同右
 - ★「復帰」51年を問うデモ 5月14日（日）午後2時
新宿アルタ前 主催：沖縄一坪反戦地主会・関東ブロック
- 〈広島サミット反対集会・デモ〉
- ★サミット反対広島デモ 5・19（金）11時舟入第一公園
 - ★国際連帯フォーラム 5・19（金）15時広島東区民文化センター小ホール
 - ★全国交流会 5・19（金）18時30分 同右大会議室
 - ★サミット反対広島デモ 5・20（土）13時千代田公園集合
主催：G7広島サミット反対現地デモ実行委員会
 - ★サミット反対新宿デモ 5・18（木）18時アルタ前集合
主催：G7広島サミットに反対する東京実行委員会

学習サポーター不採用

損害賠償請求裁判始まる

次回口頭弁論5月22日(月)

(千葉地裁松戸支部 506法廷)

吉田晃(千葉学校労働者合同組合)

《どんな裁判?》

2020年夏、新型コロナウイルス対策で学校現場が大混乱しているときに、文部科学省が学校現場への緊急対策として半年間の臨時学習サポーターの派遣予算を各県に出した中で起きた採用差別事件。

千葉県教委の東葛飾教育事務所は、募集定員をなかなか確保できない中で、積極的に応募してきた学校合同(千葉学校労働者合同組合)の前執行委員長だった私を採用したくないために、悪意を持って採用点数をわざと低く査定し、「採用基準」に満たないからと《不採用》とした。

千葉県教委のその不当な対応を許さずに、責任を追及しようとする裁判だ。

《傍聴希望者が半数入れなかった第1回口頭弁論》

第1回口頭弁論は、3月6日に千葉地裁松戸支部502法廷でおこなわれた。

支援傍聴の仲間たちが37人も集まってくれたが、502法廷は20席しか傍聴席がなく、半分近くの人は法廷に入れなかった。しかし、この結集のおかげで、次回(5月22日16時)は、もっと広い506法廷(30席)でおこなうことになった。

《裁判終了後に報告・交流会開く》

この日は、裁判終了後に、松戸市勤労会館で学校合同主催の裁判の報告と支援者の交流集会をおこなった(左写真)。

学校合同の委員長が司会し、原告の吉田が、傍聴できなかった人も多かったので、当日の裁判内容の報告をおこなった。

この裁判は吉田の本人訴訟として提訴したが、実は弁護士吉永満夫さんに全面的に支援していただき、訴状の作成から裁判所とのやりとりの指導まで受けてきた。それで、吉永弁護士が訴状のポイントを解説してくれた。

その後、全国学校労働者組合連絡会の仲間(山梨・埼玉・横浜)や吉田が所属している学校合同の仲間たち、千葉高教組の元組合員・東京の「君が代」処分と戦い続けている仲間・ユニオン埼玉や千葉からの傍聴者が次々と、自らの闘いや取り組みの紹介とこの裁判の支援について熱く語ってくれた。

第2回口頭弁論は、5月22日(月)午後4時~千葉地裁松戸支部(506法廷)です。松戸駅から徒歩約10分。3時半には集合下さい。



単一労組公式サイト